



■会場■

科学技術館

〒102-0091 東京都千代田区北の丸公園2-1
TEL: 03-3212-2440 FAX: 03-3212-8540

■アクセス■

東西線「竹橋」駅下車 1B出口より徒歩約7分
東西線／半蔵門線／都営新宿線「九段下」駅下車
2出口より徒歩約7分

メインテーマ：「ユビキタス・ネットワークとデジタル放送・通信～アジアの果たす役割と可能性」

11月26日(土)	
9:30～	受付
10:00～10:10	会長挨拶：伊藤 陽一 情報通信学会会長
10:10～12:10	<p>第1パネル・ディスカッション</p> <p>テーマ 「ユビキタス・ネットワーク社会形成に向けた国際連携」</p> <p>問題提起者 田尻 信行 (早稲田大学大学院 国際情報通信研究科客員助教授)</p> <p>パネリスト 佐賀 健二 ((独)情報通信研究機構招聘研究員) 花谷 昌一 (アジア・オセアニアFTTH 協議会会長) 劉 雪雁 (財国際通信経済研究所客員研究員)</p> <p>モデレータ 田川 義博 (財マルチメディア振興センター専務理事)</p>
12:10～13:30	昼食・休憩
13:30～14:30	<p>基調講演：</p> <p>「ユビキタス社会の実現に向けて ～課題と展望～」</p> <p>徳田 英幸 (慶應義塾大学大学院政策・メディア 研究科委員長兼環境情報学部教授)</p>
14:30～14:40	休憩
14:40～16:40	<p>第2パネル・ディスカッション</p> <p>テーマ 「アジアにおける情報ライフライン構築に向けた 国際連携」</p> <p>問題提起者 吉本 繁壽 ((独)情報通信研究機構 アジア研究連携センター長)</p> <p>パネリスト 青山 文則 (BHNテレコム支援協議会技術担当) 伊藤 英一 (日本大学法学部教授) 小嶋 富男 (NHK報道局気象・災害センター長)</p> <p>モデレータ 山下 東子 (明海大学経済学部教授)</p>
16:40～16:45	閉会挨拶：武蔵 武彦 実行委員長
16:50～18:20	<p>情報通信法制・政策研究会</p> <p>テーマ：「ユビキタス時代の我が国情報通信の 現状と課題」</p> <p>報告者：有富寛一郎 (総務省 総務審議官) 司会：小菅 敏夫 (電気通信大学名誉教授)</p>
18:30～20:00	懇親会 (立食、場所：科学技術館レストラン)

第22回

国際コミュニケーション・フォーラム

メインテーマ

「ユビキタス・ネットワークと
デジタル放送・通信～アジアの
果たす役割と可能性」



会場 科学技術館 サイエンスホール

〒102-0091 東京都千代田区北の丸公園2-1

主催 財団法人情報通信学会

協賛 財団法人国際コミュニケーション基金

後援 東日本電信電話株式会社 西日本電信電話株式会社
日本電気株式会社 富士通株式会社
日本電信電話株式会社
パナソニックモバイルコミュニケーションズ株式会社
株式会社日立製作所 財団法人国際通信経済研究所

開催要領

- 名 称 第22回国際コミュニケーション・フォーラム
- 開 催 日 時 2005年11月26日(土)
- 会 場 科学技術館 サイエンスホール
〒102-0091 東京都千代田区北の丸公園2-1
- メインテーマ ユビキタス・ネットワークとデジタル放送・通信
～アジアの果たす役割と可能性～
- 基 調 講 演 「ユビキタス社会の実現に向けて～課題と展望～」徳田英幸
- 第1パネルディスカッション 「ユビキタス・ネットワーク社会形成に向けた国際連携」
- 第2パネルディスカッション 「アジアにおける情報ライフライン構築に向けた国際連携」
- 情報通信法制・政策研究会 「ユビキタス時代の我が国情報通信の現状と課題」
- 参 加 費 会員 5,000円(フォーラム参加費と懇親会費の合計)
(フォーラムのみに参加される方は、2,000円)
非会員(一般) 5,000円
(フォーラムのみに参加できます)
- 申し込み方法 会員・非会員の方とも、事務局あてにE-mail
(forum@jotsugakkai.or.jp)で、参加希望のプログラム(基調講演、シンポジウム、研究会、懇親会)と連絡先(住所、氏名、所属、メールアドレス)を記入の上、件名(タイトル)を「フォーラム参加申込」としてお申し込み下さい。
- 駐 車 場 車でのご来場はご遠慮ください。
- 申 込 締 切 平成17年11月18日(金)
- 照 会 先 (財)情報通信学会事務局
〒105-0001 東京都港区虎ノ門3丁目22-1
秀和第二芝公園3丁目ビル
TEL. 03-5405-1150 FAX. 03-5405-3696
E-mail : jsicr@jotsugakkai.or.jp

発表概要および申込方法については、ホームページをご参照下さい
URL <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsicr/>

開催趣旨

可能性に満ちたデジタル放送および通信の時代が幕を開けようとしています。同時に、コンピュータの普及も進捗し、所謂ユビキタス・コンピューティングがグローバルなネットワークとして顕現しようとしています。

この分野において、アジアが果たしつつある主導性は顕著であり、ITUやOECDといった国際機関の場においても、2005年をもって、アジア、あるいはアジア・太平洋の時代への変革のターニング・ポイントとされることが多くなっています。

今回のフォーラムにおいては、「ユビキタス・ネットワークとデジタル放送・通信～アジアの果たす役割と可能性」というテーマの下、一見地味な問題ではあるものの、看過することの許されない問題でもある、『ユビキタス・ネットワーク社会形成に向けた国際連携』および『アジアにおける情報ライフライン構築に向けた国際連携』に関する事柄に焦点を絞り、アジアが果たすべき、あるいは果たすことが期待される主導的役割を探ろうとするものです。

第1パネル・ディスカッション

ICTを活用した国際連携の推進については、2000年の主要国首脳会議での「沖縄IT憲章」でもその重要性が強調され、また、総務省が主導している「アジアブロードバンド戦略」などにおいても取組みが進められています。日本では、2005年度末を期限とするeジャパンII戦略の展開により、ICT市場が大きく立ち上がって来ており、また、今後のICT政策として、u-Japan政策が総務省から提唱されています。

しかしながら、世界や近隣のアジアに目を転ずれば、ICTの発展は国により大きく異なっています。このため、国際的なデジタルデバイドを解消して、各国ともICTの成果を享受できるような取組みの必要性が、今

後のグローバル市場経済化の円滑な進展を進める意味からも大きくなっています。

このパネルにおいては、各国におけるICT進展の現状を明らかにするとともに、ICTの成果を各国が享受できるようにするために、日本との国際連携の枠組みが出来つつあるアジア地域に関する国際連携の現状と今後の方向性に関する問題状況について論議します。

位置づけとしては、デジタルデバイド問題を含むICT市場が発展するための環境整備の問題にフォーカスするものです。

第2パネル・ディスカッション

アジアは域内に人口が密集し、経済活動が活発で、人の交流も盛んです。しかし、情報交流の現状を見ると、各国が独自の文化的・社会的・経済的・政治的背景のもとに情報政策を展開してきたため、国によって通信・放送網の整備の方向が異なり、また各国国内でも都市と地方の格差がなお残されており、使用言語についても国や地域それぞれに母国語があり、英語を共通語とするスタンダードな情報網のみでは十分に情報が伝わらないばかりか、その操作上の利便性も十分に発揮されておりません。

いったん自然災害、テロ、陸上や海上での事件・事故などが発生したとき、あるいはその危険が押し寄せたとき、どの程度迅速・的確に情報の授受がなされるのでしょうか。国民を対象とした緊急情報網はどの程度整備されているのでしょうか。滞在中・移動中の外国人が母国にいるのと同じ程度の情報アクセス・発信手段を持つためには何が必要なのでしょうか。

インド洋大津波の教訓をふまえた以上のような問題意識に基づき、このパネルにおいてはハードとソフトの両面からアジアにおけるライフラインとしての通信・放送網の現状を確認し、そのうえで国際連携のあり方として、今後どのような緊急課題ならびに長期的課題があるかを明らかにします。